



「ひとりの男の子が
私たちに与えられた」

あゆみ

2021年
クリスマス号



発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463

主任司祭 ベロッティ・ジャンルーカ

皆様、イエスさまのお誕生を心よりお祝い申し上げます。ご降誕おめでとうございます！

皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年もクリスマスがやってきました。しばらくぶりの「あゆみ」で皆様と分かち合いたいことがたくさんあります。今日は目の前に現れた幼いイエスの姿についてひとことお話ししたいと思います。

主の降誕、夜半のミサの中でイザヤ書が読まれ、次のような預言を聞きました。「ひとりのみどりごが私たちのために生まれた。ひとりの男の子が私たちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君』と唱えられる。」(イザヤ書9章3(5節))

子ども、特に赤ん坊は、とても壊れやすく人の助けなしには生きられない様子で、その姿を見て「権威が彼の肩にある」などとは思わないで

しよう。しかし、その預言が実現したと信じるならば、毎年クリスマスに祝うイエスの誕生のことだけでなく、イエスの全生涯にわたる神秘についても、徐々に学んでいくことになるでしょう。

皆様、『驚鳥のゲーム』というボードゲームはご存知でしょうか。子ども頃、友だちとよくそのゲームで遊んで楽しんだものです。今年のクリスマスを迎えるにあたり、そのゲームのことを思い出しました。その時頭に浮かんだのはゲームの方向転換点となる特別なスペースのことで、す。このスペースに駒が進むと、プレイヤーは振り出しに戻ります。それまでの進行は無駄になってしまい、最初からまた苦労してやり直さなければなりません。

日々の生活の中で、誰にでもそのような気持ちや経験をすることがあるのではないのでしょうか。いのちの旅の歩みの中で、人間関係や家庭、学校、職場、あるいは教会の空気が重苦しく辛くてどうしようもなくなくなつて、機械や端末のようにリセット(初期化)できたらと思つたことはありませんか。その時、幼いイエスの姿を思い出しましょう。その無力な赤ん坊にすべての瞬間の意味があると信じ、彼の誕生の神秘にすべての尊さや価値があることを再び見出して、慰めと力を頂きましょう。つまり、驚鳥のゲームのように振り出し



に戻されてしまうスペースに落ちこむことがあっても、イエスにはその姿に見えない権威や力があり、すべての人を世話し、指導できる力があります。そのイエスに逃れることによつて再スタートできるお恵みを共に願ひ祈りましょう。

「主よ、私たちを訪れ、平和をもたせてください。私たちがみ前で喜ぶことができますように。アーメン。」

Merry Christmas !

教会委員会だより

教会委員会委員長

世界的に感染症がこんなにも長く私たちを苦しめ続けるとは誰が想像したでしょうか？長く暗い道を迷いながら手探りで前に一歩進み、半歩下がり、二歩進みという教会活動でした。

以下、五月から十二月の教会活動の紹介です。

一、五月より八月、新型コロナ感染防止対策により、土曜日前晩、日曜日二回のミサを地区割りや人数制限がある中で捧げています。

二、五月十五日(土)は菊地大司教様をお迎えし、五十周年記念ミサをお捧げしました。歴代司祭や所縁のある方々をお迎えし、感染対策を万全に行い、午前、午後の二回ミサでした。

三、八月に入り、感染が拡大され、被昇天ミサ以降は、九月末まで非公開ミサとなりました。

四、敬老のためのミサは残念ながら非公開ミサ中でしたので、カードをお贈りいたしました。

五、十月より、ミサが再開となりました。十月、十一月は感染防止等様々な理由で教会に来られない方も教会との繋がりのために土曜日のミサを中止し、十六時よりロザリオの祈りのLive配信を始めました。

六、教会学校は、非公開ミサ後に再開をしています。Zoom参加の方もあります。中高生会が再開しました。感染対策のうえ、十月末には遠足に出かけ、十一名が参加しています。

七、九月二十五日、十月二十三日、サレジオ会飯田神父様によるゆるしの秘跡がありました。

八、十一月二十一日 子供ミサの中で七五三のお祝いをしています。四名の方をお祝いいたしました。

九、十二月十九日 子供ミサで一名のお子様を受洗されました。引き続きクリスマス会が行われました。

十、十一月二十七日 ルカ神父様によるゆるしの秘跡がありました。

十一、十二月十八日 アンデレ金神父様によるゆるしの秘跡、十二月十九日ミサ司式ミサがありました。

まもなく聖ヨセフ年が終わります。教皇フランシスコは、十一月十七日一般謁見の中で、聖ヨセフ様のお話をされました。



「ナザレの大工ヨセフ、若い許嫁の上にある神の御計画を信じるヨセフは、世にもてはやされるものではなく、世が意図的に目を逸らすもの、片隅や、闇や、郊外を見つめることを教会に思い出させる。ヨセフは、わたしたち一人ひとりに、他者が切り捨てる物事を大切にするように招いている。」

このような意味で、ヨセフはまさに本質を教える師である。ヨセフは、本心を惹かないが、それを発見し、価値づけるために、忍耐強い識別が必要であることを教えてくれる。」

パパ様のお話を心に留め、世界的なパンデミックの中で本当に価値のあることに目を向ける教会活動が出来る様に聖ヨセフ様に取り次ぎを祈ります。

教会学校 遠足の

一日を過ごして

教会学校より

十月三十日(土)に行われた教会学校の遠足に、久々に参加させていただきました。当日は爽やかな秋晴れで、暑すぎず寒すぎずの気持ちのいい天気の中、子供たちと外の空気を楽しむことができました。もともと大学生となり教会学校に向ける機会が少なく、あまり顔を出すことができない中で、昨今の状況下、なかなか教会学校の子どもたちと遊べない中で今回こうした時間を楽しめたこと、今の心苦しい環境の中ではより大きな喜びに感じました。

公園の中ではドッチボールやバドミントン、ハンドボール…皆のびのびと体を動かし遊んでいる様子や、自分もそこで楽しめる空間が何より幸せに感じます。普段皆が学校で何をしているか、友達とどんな風に過ごしているか、そう言ったことを教えてくれたり、兄弟のことや最近あった出来事を話してくれました。そうしたことを聞ける機会もなかなか減ってしまったからこそ、こうした会話が聞けることが幸せなことと感じます。歩いてる中でも子どもたちの中では



小さな草をとりブーケのようにして渡してくれました。「あつ可愛いね!」小さな葉っぱで束ねられたブーケでしたが、小さな手から渡されたそれはどこの花屋の花束にも負けない力を感じました。この状況の中で、こうした足元にある自然さえも見つけることが少なくなつた今、子供たちと自然に触れ合うことの喜びをひしひしと感じる一日でした。

思えば昭和記念公園そのものも、最後に行ったのはいつだっただろうと感じるほど前であった気がします。すっかり出向くことが少ない今、思い返すと教会学校に通っていた日々はとても楽しい

始めに、日々の生活が一変してしまつたこの状況下で、洗礼を授かるという神聖なる日を皆さんと一緒に迎えることができたこと、とても嬉しく感謝

受洗者寄稿

洗礼を授かって

アンデレ ラファエル H.I.

もので、その中でもどこかへ出かけるイベントは特に楽しみにしていました。初めてみる自然や初めて行く場所、何度か行くところでも毎度変わる景色、そういった見るもの全てが新しく、発見の場でした。そうした私が教会学校に通っていた頃は当たり前だった夏季キャンプや、遠足、一泊錬成会などが無い今、こうして過ごす時間が子供達の小学生という短い間の中でどんどんと減ってしまつたことには切なさを感じざるを得ません。早くこの日々が明け、また神様のもとで新しい景色を、子供たちとともに見つけ出せる日がきますように、そう強く感じる一日でした。



しています。ありがとうございます。幼い頃から、母に連れられ都内の教会へ足を運ぶ機会がありました。が、神様の存在を意識するようになったのは、長い入院生活の中ででした。もがきながら、在るがままを受け入れることが、神様を知る道なのか、その漠然とした意識がより具体的になったのは、高校での学びを通してだと思えます。

私の高校では、入学と同時に自分の聖書をもらい、週一のキリスト教概論という授業や定期的にある講演などを通してキリスト教について学んでいきます。実際は、信仰をもつ生徒ばかりではないため、生徒の反応はさまざまですが、そんな日々も私にとってはとても刺激的です。先生方や周りの生徒たちの様々な考え、価値観に触れること

ご降誕おめでとうございます



◆高幡教会のミサ時間◆

教会からの手紙をご覧ください

◆高幡教会ホームページの URL ◆

<http://www.cctakahata.jp/>

で、より聖書や信仰、キリスト教が如何に自分に影響を与えているか改めて気付かされました。また、小さい頃から気づかないうちに母の影響を受けていたからだとも思っています。洗礼を授かりキリスト者として歩んでいくことが始まったばかりですが、これから与えてもらったものに感謝して、少しずつ、イエスさまの教えを学んでいきます。

最後に、ルカ神父さま、暖かく迎えて下さった高幡教会の皆様、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願います。